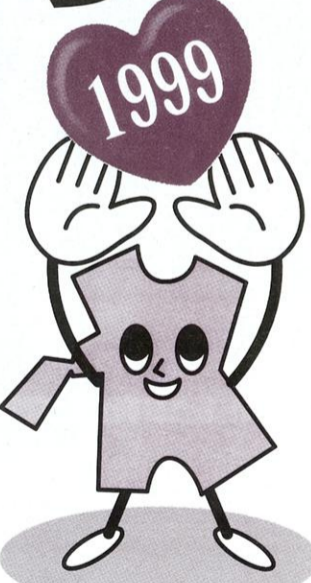
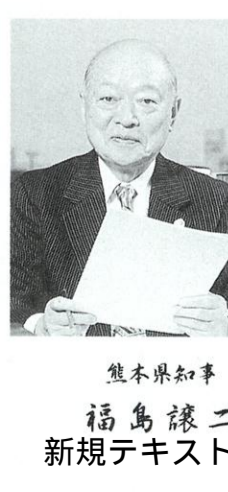


1集 特政 この1年を振り返る

ますます元気に、あたりさわい くまもとづくりが進んでます



知事室から



今年も残りわずかとなりました。皆様方には、実り多い一年を過ごされたことと思います。

今年本県は、台風十八号の襲来により、十六名の方が亡くなり、農作物を中心に甚大な被害を受けました。被災された方々の悲しみが癒え、一日も早く復旧が成し遂げられますよう、引き続き皆様と力を合わせて参りたいと思っております。さて、今年の県政を振り返りますと、二十一世紀への発展に向けた基礎づくりが着実に進むとともに、県民の皆様と力を一つにすることのできた一年でした。その筆頭は、「くまもと未来国体」と「ハートフルくまもと大会」の成功です。両大会にも、幅広い世代の、たくさんの方々に参加をいただき、各地で心温まる交流が生まれました。また、国体では初めて天皇杯、皇后杯を獲得するなど、県選手団は存分に力を発揮し、スポーツの感動を与えてくれました。ボランティアやサポーターの方々をはじめ、両大会を成功に導いてくださったすべての県民の皆様のおかげと、感謝の気持ちで一杯です。両大会を通じて生まれた感動と力は、新しい熊本づくりの大きな力になるものと確信しています。

次の世代に素晴らしい熊本を引き継ぐために、今後とも全力を尽くして参ります。皆様のご理解と御協力をよろしくお願い申し上げます。

1月から 九州新幹線鹿児島ルート

九州新幹線鹿児島ルートは、県内で二番目の長さとなる吉尾トンネル（六千五百メートル。芦北町）が貫通。また、国政レベルにおいても本ルートの早期整備に向けた機運が高まるなど、着実に前進しました。熊本港と八代港では、県内初のコンテナターミナルが六月から稼働を始め、それぞれ韓国釜山との定期航路も開設されました。また、天草空港も十月に施設が完成。来春の開港に向け着々と準備が進んでいます。

2月 福島知事の三期目がスタート

福島知事の三期目がスタートしました。副知事は県内の民間の児童福祉施設であった潮合義子さんを迎え、本県で初めての女性副知事が誕生。県政に新風を吹き込むと同時に、男女共同参画社会の実現に向けて大きな弾みとなりました。また、二十一世紀に向けた熊本づくりの指針となる新しい県総合計画の策定に着手。広く県民の皆さんの声を聞きながら、来春をめどに検討を進めています。

3月 ごみ処理の広域化計画を策定

ごみ処理の広域化を内容とする「熊本県一般廃棄物処理広域化計画」を策定しました。県内を中部、県北・県南の三つのブロックに分け、焼却施設を統廃合・大型化することにより、ダイオキシンの排出量やごみ処理のための費用を減らすことを目標としています。

1月から 間伐により健全な森林づくりが進む

国産材の不振などのため、間伐が行われない森林が増えていることから、昨年十二月県独自の事業を創設。市町村、森林組合と力を合わせて間伐を進めてきた結果、実施面積を五割増やすことができました。優良な県産材の産出にとまらず、水や空気の供給など環境面でも効果が期待されています。

3月から 広域道路網の整備進む

「くまもと未来国体」のアクセス道路となる通称「東西線」「南北線」をはじめとする国体関連道路が開通しました。また、益城熊本空港インターチェンジの開通、九州縦貫自動車道八代〜人吉間の四車線化の完成、同人吉〜えびの間の四車線化着手、九州横断自動車道延岡線（御船〜矢部間）や熊本環状道路の事業着手など、県内広域道路網の整備が着実に進みました。

3月5日 県政情報の公開がさらに進展

昨年の情報公開条例の改正、県審議会等の公開指針の策定に引き続き、県が出資する団体等についても情報公開に関する指導基準を定めました。また、公開指針に基づき公開を決定した県審議会等が、全体の六十五パーセントと大幅に増加（未決定分を除く）（未決定分の公開がさらに進みました）。

4月から 新産業創出と経済・雇用対策が前進

県では二次にわたる経済対策を講じて、県内景気の回復に取り組みました。また、庁内に雇用対策連絡会議を発足させ、緊急地域雇用特別基金を創設して新たな雇用を創出する事業に着手しました。さらに、新産業創出のため、次世代半導体製造技術などに関する共同プロジェクトが、産学行政の連携のもと発足。その拠点の一つ「共同研究棟」がテクノロジーパーク内に完成。いずれも二十一世紀の本県産業の発展に大きく寄与するものと期待されています。

9月 台風18号被害への支援対策を実施

九月二十三日深夜から二十四日午前中にかけて襲来した台風18号により、本県では死者十六名を含む大きな被害を受けました。県では、当面の対策に必要な予算を九月議会に追加提案するなどして、関係機関と協力し、被害を受けた方への支援策の早期実施に努めました。

9月10日 三十九年ぶりの感動再び。くまもと未来国体開催

本県では三十九年ぶりの第五十四回国民体育大会「くまもと未来国体」が、県内五十九市町村を舞台に開催されました。県民総合運動公園陸上競技場をはじめとする各会場では、連日熱戦が繰り広げられるとともに、選手達と県民のさわやかな交流が広がりました。県選手団も初の男女総合優勝を飾り、県民総参加で喜びと感動を分かちあつた、二十一世紀への架け橋にふさわしい大会となりました。

7月 県福岡事務所を開設

福岡市天神の「アクロス福岡」に、三番目の県外事務所である県福岡事務所を開設しました。福岡市場での本県企業の活動をサポート、ビジネス情報の収集・発信とその熊本へのフィードバック、観光・物産をはじめとした各種情報発信の拠点として、県経済の活性化につなげることを目指しています。

10月 介護保険の要介護認定が始まる

平成十二年四月からの介護保険制度の実施に先だつて、各市町村で要介護認定が始まりました。これは、介護を必要とする高齢者の方々が、制度開始後すみやかに介護サービスを受けられるよう、事前の準備として行われているものです。

11月 たくさんのやさしい心が触れあつて。ハートフルくまもと大会開催

「がんばるが、いっぱい。」をスローガンに、やさしくくまもとを舞台に繰り広げられた全国身体障害者スポーツ大会「ハートフルくまもと大会」。選手、ボランティア、観客が一体となつて、会場は温かさに包まれました。また、さまざまな場面で交流の輪が広がり、心に残る思い出深い大会として、成功のうちに幕を閉じました。

8月から 元気！活き活き！「くまもと21 農業振興運動」を新たに展開

農家が活き活きと夢と希望をもって取り組めるような二十一世紀の農業づくりに向けて、元気！活き活き！「くまもと21農業振興運動」がスタートしました。生産者・消費者団体などが一体となつて、本年度から三年間運動を展開します。十一月の「くまもと農業ウィーク」では、さまざまなイベントを開催し、運動の浸透を図りました。

10月 鞠智城のシンボル 八角形鼓樓が落成

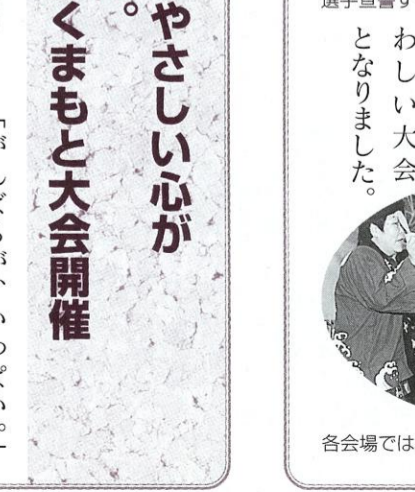
歴史公園化を目指して整備を進めている古代山城「鞠智城」（菊鹿町・菊池市）のシンボルとなる、八角形の鼓樓が落成しました。鼓樓は、瓦葺き木造三層、高さ約十六メートル。八十一本におよぶ柱のヒノキ、部材の杉は、それぞれ県産材を使用しました。既に復元を終えていた米倉・兵舎とともに、古代山城の建物の復元は、全国初の取り組みでした。

11月 熊本ろう学校鼓隊が大会旗を先導しました

熊本ろう学校鼓隊が大会旗を先導しました。たくさんの「がんばる」と「やさしさ」が出会いました。



熊本ろう学校鼓隊が大会旗を先導しました



各会場では、あたたかな声援が送られた



天皇杯、皇后杯を獲得